

お宝スポットで、おもしろ発見。

おもちゃのギャラリー

ギャラリー内には、3千個以上のおもちゃが陳列され、倉庫内を含めれば1万個はくだらないとか。ここは、単におもちゃを展示しているだけではなく、店主の山田さんが分かりやすくおもちゃの歴史や背景を解説してくれるので、きっとあなたのおもちゃに対する考え方・見方が変わるはずです。地元住民も意外と知らない隠れたスポット。



[MAP E-III]
 電 0296-33-3038
 営 10:00~19:00
 休 日曜日・祝日

お宝スポット

結城市民情報センター

2004年に開館した結城市民情報センターでは、人々が自由に学び、楽しみ、編集し、交換し、発表するための様々な場や空間がたくさん用意されていますので、是非立ち寄ってみてください。特に4階の天体ドームは必見です。



[MAP E-II]
 電 0296-34-0150
 営 火~金 9:00~20:00
 土日祝 9:00~19:00
 休 月曜日

この章では、沢山のおもちゃを展示している「おもちゃのギャラリー」や様々な機能が集結した「結城市民情報センター」の他、結城の歴史に関わる御朱印堀跡や築地塀、約10年間結城に滞在し多くの襖絵や俳句を残した与謝蕪村の句碑、結城の民話など結城お馴染みのスポットについて触れています。右の写真は、結城の玄関口、JR水戸線結城駅改札口を出てすぐの「メルヘン橋」。



お宝スポットはマップ上のこのマーク ▶

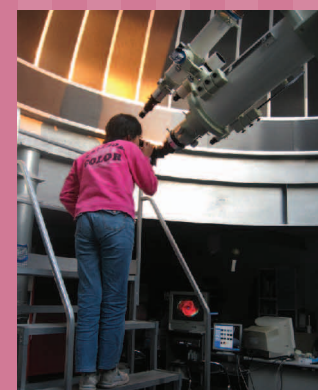


星を観る

結城市民情報センター最上部には、フローライトレンズ使用（国内には3台のみ！）の250mm屈折式天体望遠鏡を設置した天体ドームがあり、無料で様々な惑星を観察することができます。折角の機会だから、望遠鏡を覗き込んで、ゆっくり星でも眺めてみませんか？

天体ドーム（情報センター4階）

天体観測日は不定期のため、詳しい日程は下記ホームページで確認してください。
<http://www.info-yuki.net/events/index.html>



結城の歴史スポットを訪ねる。



築地塀

市役所から結城小学校にかけての日高川通りに沿ってある白い築地塀は、今もなお、歴史を感じさせる雰囲気を醸し出しています。そばの橋や街頭も掘割をめぐらした歴史と伝統を感じてさせてくれます。

[MAP F-III]



御朱印堀跡

結城家16代政勝は、御朱印堀の堀内屋敷地（11ヶ町）に町民の中核を住ませ地子御免地（宅地税免除地区）として保護し、城下町結城のさらなる発展を図りました。現在はその御朱印堀跡が残っています。

[MAP B-II]



蕪村の句碑

江戸時代の俳人で画家の与謝蕪村をご存知でしょうか。1742年、同門だった砂岡雁宕のもとに身を寄せ、約10年間に渡り結城に滞在し、襖絵と結城を詠んだ俳句を多く残しました。市内には蕪村ゆかりの浄土宗の学問所であった弘経寺の他、市内に点在する句碑があります。

上：[MAP B-I]

下：[MAP E-II]

結城の民話に触れる。



源翁和尚の墓

様々に化けて、幾たびの悪態を行った九尾の狐は、やがて石塊になり、この石に触ったもの全てを毒気に冒し殺してしまうという殺生石と化し、多くの犠牲者を出しました。この石を打ち、殺生石の災いから救った人物が源翁和尚です。

[MAP B-III]



首切り地蔵

その昔、首切りの刑が廃止になるまで、結城にも西の宮刑場と呼ばれる首切り場がありました。首を切り落とされた多くの人々を供養するためにこの地蔵は建てられましたが、なぜか首から上は何度も落ちてしまうそうです。そんなことから、この地蔵の首から上の部分はセメントでつくられた新しいものになっています。

[MAP F-III]



袖切り橋

幕府に布教を禁止された親鸞は、結城を離れる決心をします。親鸞が結城を発つ際に、お見送りの人々に別れの挨拶を交わした場所が小川にかかる木橋。最後の別れで親鸞が木橋を渡ろうと踏み出した時、別れを惜しんだ娘が親鸞の衣の袖をぎゅっと握っていたため、袖が切れてしまったそうです。

[MAP B-III]



称名寺にある親鸞像

結城の文化を知る

結城は早くから文化の花開く素養を持つ都市でした。江戸時代になると、町人の高い経済力は多くの文化人を育みました。結城を代表する俳人の砂岡雁宕（いさおかがんとう）は与謝蕪村と同門であり、蕪村は寛保2年（1742）、雁宕を頼って結城に来ています。蕪村はその後、弘経寺に移り住み、同寺に墨梅図、楼閣図、山水図などの襖絵を残しています。右の写真は、蕪村が描いた襖絵（弘経寺蔵・非公開）。



蕪村の句碑はマップ上のこのマーク ▶

蕪

結城の民話について

この地方に昔から言い伝えられている話や、結城にまつわる話などを集め、郷土理解を深め郷土愛を育てたいとの願いから、小中学校児童・生徒を通じて各家庭や近所の古老に呼びかけ、「お話」の収集→採録→文章化の作業を経て「民話ゆうき」が出来上がりました。この本は昭和53年に作成され、40の民話がかかれています。街なかには、それら民話に関するモノがあらこちらに点在しますので、気楽にめぐってみてください。



民話はマップ上のこのマーク ▶

民



路地

城下町として長く栄えた結城市には、見通しを悪くした通りや交差点の他、昔ながらの情緒あふれる路地が今もなお数多く存在します。路地は表通りを少し注意して歩けば、比較的簡単に見つけることができますので、見つけたら少し寄り道して、散歩がてらに歩いてみることをオススメします。次のページを開きますと、結城市民がよく利用する7つの通りについて、各通りのスナップ写真を載せてご紹介していますので、併せてご参考下さい。

右の写真は城下町特有の見通しの悪い交差点。



路地が醸し出す情緒あふれる風情を感じる。

路地



見つけてみて！



亀甲通り

結城紬の模様として広く使われている亀甲柄を路面のモチーフに利用した亀甲通り。駅前蔵通りの一つ隣を並行して通っているため、駅前蔵通りからのアクセスが簡単な上、結城駅からもすぐに辿り着くことができます。

亀甲柄の路面





■ 暖簾でみる結城

結城市では、街並みを彩る要素として「暖簾」を活かした街づくりも展開しています。各店舗独自の様々な暖簾を創っていますので、それに注意しながら歩いてみるのも楽しいです。



■ 昔から呼ばれている町名

結城市の街なかには昔から使われている地名が今も所々に残っています。地元住民の中には今もその名前に愛着を感じている人がおり、各通りにもその名前が一部反映されています。

街なかにある昔から呼ばれている町名

- | | | |
|--------|------|-------|
| ・浦町 | ・白銀町 | ・戸野町 |
| ・大町 | ・神明町 | ・永横町 |
| ・鍛冶町 | ・大切町 | ・西町 |
| ・肝入町 | ・立町 | ・西の宮町 |
| ・穀(石)町 | ・陣屋町 | ・番匠町 |
| ・国府町 | ・戸張町 | ・木町 |
| ・紺屋町 | | |



伝統工芸を身近に感じられる楽しい体験。



体験

結城市には、日本の伝統的工芸品である「本場結城紬」が存在します。その結城紬の製造工程の一つである「織り」や「染め」を実際に体験できる施設が結城市の街なかにはいくつかありますので、時間にゆとりがある方は、是非体験してみようことをオススメします。結城紬がより身近に感じられるはずです。

右の写真は観光物産センター内に展示された「じばた地機しよつきと呼ばれる織機。

体験施設はマップ上のこのマーク ▶



織り体験

「織り」は、結城紬の製造工程の中の一つで、はた織機（地機）を使って織り上げる作業です。街なかでは、『織場館（つむぎの館内）』や『郷土館』で体験できます。



染め体験

染め体験ではハンカチやバッグなどの小物を1時間程度で染める事ができます。街なかでは、『織場館』や『手作り工房「里」』で染め体験を楽しむことができます。



織り・染め体験施設

つむぎの館

つむぎの館には、体験工房の「織場館」をはじめ、結城紬に関する展示施設「手緒里」や小物販売等の「結の見せ」など様々な施設が併設されています。

【MAP G-III】

電 0296-33-5633

営 9:30～17:00

休 火曜日・年末年始（12/29-1/4）

¥ 織・染共に800円～



体験したらほしくなる。

本場結城紬



長年にわたり多くの先人たちの創意工夫によって成長してきた本場結城紬は、わが国最古の歴史を有する高級絹織物として、昭和31年に国の「重要無形文化財」に、昭和52年には「伝統的工芸品」に指定され、全国にその名が知られています。全行程が手作業で行われ、高い品質を維持しており、着物に限らず、名刺入れや財布、眼鏡ケース、セカンドバック、ネクタイなど、様々な紬製品も作られています。

「重要無形文化財結城紬」の商標を得るには、①糸つむぎ、②緋くり、③地機織りの三つの条件を満たさねばならず、その他に幅・長さ・打ち込み数や模様ずれなど十六項目についての厳しい検査に合格することが必須となっています。

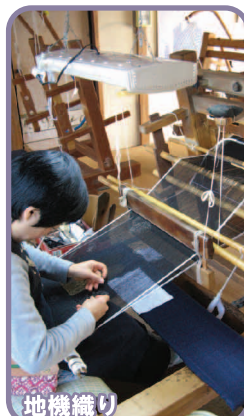
商標マーク



結城紬の主な製造工程

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 煮 繭 | 13. 緋ほぐし |
| 2. 真綿かけ | 14. 小 割 |
| 3. 糸つむぎ | 15. 緋合わせ |
| 4. 糸あげ | 16. 本糊つけ |
| 5. 染 色 | 17. 緋糸まざし |
| 6. 下糊つけ | 18. おさ通し |
| 7. 図案作成 | 19. 機巻き |
| 8. 管まき | 20. かけ糸かけ |
| 9. はたのべ | 21. 地機織り |
| 10. 墨つけ | 22. 検 査 |
| 11. 緋くり | 23. 糊めき |
| 12. たたき染め | 24. 製 品 |

商標を得るための三つの条件



結城の工芸品は職人技の賜物。

体験

桐箆笥

結城が城下町になった頃からけやきに代わって桐で小袖たんす（衣類収納）が作られるようになりました。桐材は燃えにくく通気性に富むなど、衣類収納用としては最適です。

桐工芸品

桐が持つ特性や桐に対する技術は桐箆笥以外にも小物入れ等の様々な桐工芸品づくりに生かされています。



まゆ工芸品

帽子、ネクタイ、財布、小銭入れ、名刺入れ、眼鏡ケースなど、紬は身の回りの製品に数多く使われています。



桐下駄

江戸中期以降、現在の下駄の種類が確立され結城の桐下駄づくりは専門的に職業化されました。靴が主流の現代でも、通気性と肌ざわりのよさでとても人気があります。



機織り実演所「結城織音館」※まちづくり交付金事業

機織り実演所「結城織音館」は、まちづくり交付金を活用し、中心市街地の空き店舗を改装してできた施設です。館内には2台の地機があり、伝統工芸士の織り手が実演しています。観光客は機織りの様子を自由に見学できる他、館内に響く”織り音”を、スピーカーを通して館外に流しておりますので、外でも機を織る音を楽しむことができます。

【MAP D-II】
営 土・日・祝日の10:00～16:00



織り体験施設

本場結城紬「郷土館」

はた織り体験をはじめ、結城紬に関する様々な展示や実演の他、紬などの販売も行っています。
※事前に要予約

【MAP G-I】
電 0296-32-2121
営 9:00～17:00
休 不定
¥ はた織り：3,150円～



染め体験施設

手作り工房「里」

ハンカチやスカーフなどを草木染、しぼり染、藍染、花染したり、まゆ人形をつくったりでき、絞り方も丁寧に指導してくれます。
※事前に要予約

【MAP H-II】
電 0296-33-3304
営 9:30～17:00
休 日曜日
¥ ハンカチ：1,000円～

